

第608回建設技術講習会 現場研修事業の概要

1 東広島・呉自動車道整備事業

東広島市高屋町～呉市阿賀中央

一般国道375号は、広島県呉市から三次市を經由して島根県大田市までを結ぶ中国地方陰陽連絡の幹線道路として、重要な役割を担ってきました。中でも、呉市から東広島市にかけての沿線は、昭和59年に広島中央テクノポリス地域に指定されて以来、地域産業の



技術高度化と先端技術開発の拠点を目指して開発が進んでいます。また同地域は広島広域都市圏の東部に位置しており、広島都市圏が中国四国地方の中核機能を担っていく上でも、その発展が期待されています。

そこで、同地域のこれからの発展に不可欠な社会基盤として、拠点都市間を迅速にネットワークする道路網の整備を目的に計画されたのが、高規格幹線道路の東広島・呉自動車道です。東広島・呉自動車道は、一般国道自動車道専用道路として、ネットワークの完成に欠かせない重要な位置を占めており、呉市・東広島市・竹原市周辺地域から山陽自動車道へのアクセス強化を目的として計画された、延長32.8km一般国道の自動車専用道路です。

2 厳島港宮島口地区港湾整備事業

廿日市市宮島口

宮島は、日本三景・世界文化遺産の島として国内外での知名度が高く、年間約400万人の観光客が訪れる瀬戸内海地域を代表する観光拠点であり、宮島口はこの玄関口として重要な港と位置づけられています。「瀬戸内海の道構想」を推進するうえでも、みなとの賑わい空間の創出による宮島口の回遊性・利便性の向上が必要です。また宮島には約2,000人の県民が生活しており、宮島航路が発着する宮島口は、住民生活にとっても不可欠な港となっています。そこで、旅客の安全と利便性の向上を図り、宮島の玄関口にふさわしい港湾を整備するため、平成22年度に港湾区域の指定を行いました。第一期港湾整備計画は平成23～32年度までとし、栈橋、ターミナル、緑地等の港湾施設の整備等を進めていきます。また、第一期環境整備として、アクセス道路整備等の渋滞対策が位置付けられており、その後も周辺地域の環境整備事業など、地区全体の整備を進めることとしています。



(整備イメージ)

3 太田川河川環境整備事業

広島市中区他

太田川は広島県の西部に位置し、中上流部で柴木川、筒賀川、滝山川、水内川等の支川を集めて流下し、広島市安佐北区可部町付近で根谷川、三篠川を合流します。その後、はん濫原として形成された平地部を流れ、広島デルタの扇頂部に達して旧太田川を分流し太田川放水路となり、広島市街地の西を流れて広島湾に注いでいます。市街地面積水面の比率が全国屈指である広島市は「水の都」と呼ばれ、市内派川を中心に市街地が形成されています。また平成15年には「水の都ひろしま構想」が策定され、水の都ひろしまの実現に向けて、国・縣市だけでなく、利用者である市民や企業等が協働で取り組みを行っています。特に市内中心部の基町地区は、市民の憩いの場として親しまれ、元安川では河川敷占用の規制緩和の特例措置を活用し、平和記念公園の対岸に元安川オープンカフェとして憩いや交流の場を提供し、潤いと安らぎを感じる質の高い水辺の風景を創出しています。



元安川オープンカフェ